

へくから発砲受く！ 竹島で韓国船から

日韓両国がおの領有を主張して問題になっている日本海の竹島（島根縣隠岐郡五箇村）の調査に向つた海上保安廳巡視船へくら（四五〇シ）から十二日韓国漁船から発砲を受けた」と十三日海上保安廳に報告があつた。随文次のとおり。

頭海上保安部（鳥取縣）の和博次部長を乗せて第四次竹島調査におもむいた巡視船「へくら」は、十二日午前五時三十分同島に到着し調査したところ、同島には韓国人約四十人（うち警備官七名）漁船三隻（いずれも約十ト、大威号、紫号ほか一隻）および伝馬船一隻を認め、これら漁夫は潜水用具を使つてわかめ、かじ類を採取しており、二日の第二次調査の際立てた日本領土の標識が韓国により撤去されていた。同六時十五分、韓国の官憲四名（警備局長任東、巡査部長サイケン、ヨクハク、通訳として中学校教官二人）が「へくら」を訪問、韓国の意思として竹島は韓国領土であることを表明したが、我方はこれを拒否し同島は日本領土であることを通告して同八時下船させた。ついで「へくら」は竹島を一周帰途についたが、その途中、突然数十発の発砲を受け、人命には危険な状態が、ボートおよび後部左舷に命中弾二発を受けた。武器は大威号に自動小銃二丁を搭載しており警備官がビストルを携帯しているのが認められた。

△海上保安廳三田警備隊艦隊に交渉は外務省にまかせてあり、当方としてはできるだけ現地でのトラブルを避けつつ順次をこつて行くつもりだ。さらに巡視船を同島に派遣する計画は現在のところない。

外務省から嚴重抗議

外務省は竹島周辺で韓国漁船が海表面を通じ韓国政府に嚴重抗議をてする五月二十八日韓国漁民が同島に上陸し不法漁業を行つたのを「竹島は歴史的にも明らかに日本領土であるが韓国はこれを認めない」として、このため外務省は六月二十六日韓国政府に文二層を派遣し事情調査させることに決めた。抗議したが回答がないなつたと発表するなど強い態度を示している。外務省は日韓会談を再開中であり、韓国政府に対し日本政府の「韓領土に抗議するよう要求」してきたが今回の発砲事件については極めて強硬な態度を示している。